

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	(1)職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容・演習の実施方法等
①多様なサービスの理解	3	3		1. 多様なサービスの理解 ○介護保険サービス(居宅、施設)、○介護保険外サービス
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解 ○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ(視聴覚教材の活用、現場職員の体験談) ○ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
合計	6	6		

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
①人権と尊厳を支える介護	4.5	4.5		(1)人権と尊厳の保持 ○個人として尊重、○アドボカシー、○エンパワメントの視点、○「役割」の実感、○尊厳のある暮らし、○利用者のプライバシーの保護 (2)ICF ○介護分野におけるICF (3)QOL ○QOLの考え方、○生活の質 (4)ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの考え方 (5)虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護者支援 (6)個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業
②自立に向けた介護	4.5	4.5		2.自立に向けた介護 (1)自立支援 ○自立・自律支援、○残存能力の活用、○動機と欲求、○意欲を高める支援、○個別性／個別ケア、○重度化防止 (2)介護予防 ○介護予防の考え方
合計	9	9		

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職に求められる専門性と職業論理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・ 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	1.5		1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携 (1) 介護環境の特徴の理解 ○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○多職種から成るチーム (3) 介護に関わる職種 ○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者、○看護師等とチームとなり利用者を支える意味、○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、○チームケアにおける役割分担
② 介護職の職業論理	1.5	1.5		2. 介護職の職業論理 職業論理 ○専門職の論理と意義、○介護の論理(介護福祉士の論理と介護福祉士制度等)、○介護職としての社会的責任、○プライバシーの保護・尊重
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.5		3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (1) 介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード (2) 事故予防、安全対策 ○リスクマネジメント、○分析の手法と視点、○事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告等)、○情報の共有 (3) 感染対策 ○感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断)、○「感染」に対する正しい知識
④ 介護職の安全	1.5	1.5		4. 介護職の安全 介護職の心身の健康管理 ○介護職の健康管理が介護の質に影響、○ストレスマネジメント、○腰痛の予防に関する知識、○手洗い・うがいの励行、○手洗いの基本、○感染症対策
合計	6	6		

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	介護保険制度や障がい者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
①介護保険制度	3	3		1. 介護保険制度 (1)介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○ケアマネジメント、○予防重視型システムへの転換、○地域包括支援センターの設置、○地域包括ケアシステムの推進 (2)仕組みの基礎的理解 ○保険制度としての基本的仕組み、○介護給付と種類、○予防給付、○要介護認定の手順 (3)制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ○財政負担、○指定介護サービス事業者の指定
②医療との連携とリハビリテーション	3	3		2. 医療との連携とリハビリテーション ○医療行為と介護、○訪問介護、○施設における看護と介護の役割・連携、○リハビリテーションの理念
③障がい者自立支援制度及びその他制度	3	3		3. 障がい者自立支援制度及びその他制度 (1)障がい者福祉制度の理念 ○障がいの理念、○ICF(国際生活機能分類) (2)障がい者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3)個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援
合計	9	9		

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
①介護におけるコミュニケーション	3	3		<p>1. 介護におけるコミュニケーション</p> <p>(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、○傾聴、○共感の応答</p> <p>(2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ○言語的コミュニケーションの特徴、○非言語コミュニケーションの特徴</p> <p>(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の思いを把握する、○意欲低下の要因を考える、○利用者の感情に共感する、○家族の心理的理解、○家族へのいたわりと励まし、○信頼関係の形成、○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>(4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ○視力、聴力の障がいに応じたコミュニケーション技術、○失語症に応じたコミュニケーション技術、○構音障がいに応じたコミュニケーション技術、○認知症に応じたコミュニケーション技術</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		<p>2. 介護におけるチームのコミュニケーション</p> <p>(1) 記録における情報の共有化 ○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、○介護に関する記録の種類、○個別援助計画書(訪問・通所・入所、福祉用具貸与等)、○ヒヤリハット報告書、○5W1H</p> <p>(2) 報告 ○報告の留意点、○連絡の留意点、○相談の留意点</p> <p>(3) コミュニケーションを促す環境 ○会議、○情報共有の場、○役割の認識の場(利用者とは頻回に接触する介護者に求められる観察眼)、○ケアカンファレンスの重要性</p>
合計	6	6		

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事柄を理解している。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3	3		1. 老化に伴うところとからだの変化と日常 (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○防衛反応(反射)の変化、○喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ○心身の機能の変化と日常生活への影響、○咀嚼機能の低下、○筋・骨・関節の変化、○体温維持機能の変化、○精神的機能の変化と日常生活への影響
② 高齢者と健康	3	3		2. 高齢者と健康 (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障がい(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)、○循環器障がいの危険因子と対策、○老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが前面に出る、うつ病性仮性認知症)、○誤嚥性肺炎、○病状の小さな変化に気付く視点、○高齢者は感染症にかかりやすい
合計	6	6		

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。			
項目名	時間数	通子時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
①認知症を取り巻く状況	1.5	1.5		1. 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念 ○パーソンセンタードケア、○認知症ケアの視点(できることに着目する)
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1.5		2. 医療的側面から見た認知症の基礎と健康管理 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ○認知症の定義、○もの忘れとの違い、○せん妄の症状、○健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア)、○治療、○薬物療法、○認知症に使用される薬
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	1.5		3. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (1) 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 ○認知症の中核症状、○認知症の行動・心理症状(BPSD)、○不適切なケア、○生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する、○プライドを傷つけない、○相手の世界に合わせる、○失敗しないような状況をつくる、○すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、○身体を通じたコミュニケーション、○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、○認知症の進行に合わせたケア
④家族への支援	1.5	1.5		4. 家族への支援 ○認知症の受容過程での援助、○介護負担の軽減(レスパイとケア)
合計	6	6		

シラバス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念とICF、障がい者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。			
項目名	時間数	通子時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
① 障がいの基本的理解	1	1		1. 障がいの基本的理解 (1) 障がいの概念とICF ○ICFの分類と医学的分類、○ICFの考え方 (2) 障がい者福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基本的知識	1	1		2. 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (1) 身体障がい ○視覚障がい、○聴覚平衡障がい、○音声・言語・咀嚼障がい、○肢体不自由、○内部障がい (2) 知的障がい ○知的障がい (3) 精神障がい(高次脳機能障がい・発達障がいを含む) ○統合失調症・気分(感情)障がい・依存症などの精神疾患、○高次脳機能障がい、○広汎性発達障がい・学習障がい・注意欠損多動性障がいなどの発達障がい (4) その他の心身の機能障がい
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1	1		3. 家族の心理、かかわり支援の理解 家族への支援 ○障がいの理解・障がいの受容支援、○介護負担の軽減
合計	3	3		

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術					
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・生活支援技術の基本知識の学習に加え、事例に基づく総合的な演習を行うことで、体系的な知識及び技術の習得ができる。 					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等	演習	使用する機器・備品等
①介護の基本的な考え方	3	3		○理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除)、○法的根拠に基づく介護		
②介護に関するこころの仕組みと基礎的理解	4	4		○学習と記憶の基礎知識、○感情と意欲の基礎知識、○自己概念と生きがい、○老化や障がいを受け容れる適応行動とその阻害要因、○こころの持ち方が行動に与える影響、○からだの状態がこころに与える影響		
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	4		○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、○骨、関節、筋肉に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、○自律神経と内部器官に関する基礎知識、○こころとからだを一体的に捉える、○利用者の様子の普段との違いに気づく視点	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子からの立ち上がりでどのようにすると立ち上がると、どのような状態であると、立ち上がれないのかを体験し、人体の動きに対して理解を深める。 ・ボディメカニクスを活用した立ち上がり時の介護を実施及び体験することで、人のからだの仕組みを活用し介護を行う必要性を理解する。 	プロジェクター
合計	11	11				

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術					
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・生活支援技術の基本知識の学習に加え、事例に基づく総合的な演習を行うことで、体系的な知識及び技術の習得ができる。 					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等	演習	使用する機器・備品等
④生活と家事	6	6		<ul style="list-style-type: none"> ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ○生活歴、○自立支援、○予防的な対応、○主体性・態動性を引き出す、○多様な生活習慣、○価値観 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の行う家事援助の機能についてグループワークを行う。 ・視聴覚教材を用い、自立支援の家事援助についてグループワークを行う。 	プロジェクター 模造紙 マーカー DVD
⑤快適な居住環境整備と介護	6	6		<ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○家庭内に多い事故、○バリアフリー、○住宅改修、○福祉用具貸与 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅の見取り図を作り、住宅改修が必要な場所や福祉用具が必要なところを検討し、環境整備図を完成させ理解を深める。 	プロジェクター 模造紙 マーカー 福祉用具カタログ
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、○身支度、○整容行動、○洗面の意義、効果 	<ul style="list-style-type: none"> ・爪切り及び耳かきの介助方法についてグループで演習を行う。 ・衣服の着脱の個別性について体験演習を行う。 ・片麻痺がある場合の衣服の着脱について演習を行う。 	爪切り 耳かき タオル 髭剃り 衣服(上衣: 被り・前開 き、下衣) 介護用靴
合計	18	18				

シラバス

事業者名 くすりのマルト初任者研修校

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術					
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・生活支援技術の基本知識の学習に加え、事例に基づく総合的な演習を行うことで、体系的な知識及び技術の習得ができる。 					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等	演習	使用する機器・備品等
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<ul style="list-style-type: none"> ・移動、移乗に関する基礎知識やさまざまな移動、移乗に関する用具とその活用方法 ・利用者、介助者にとって負担の少ない移動、移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法や移動と社会参加の留意点と支援 ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、○利用者の自然な動きの活用、○残存能力の活用、自立支援、○重心、重力の働きの理解、○ボディメカニクスの基本原則、○移乗介助の具体的な方法、○移動介助、○褥瘡予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・杖歩行の介助について演習を行う。 ・片麻痺の方に対する車いすの移乗、移動介助について演習を行う。 ・ベッドからの立ち上がり移乗について、演習を行う。 ・スライディングボードを用い、利用者の身体的負担及び介護者の介護負担軽減について演習を行う。 ・車椅子の段差超え、障害物(溝)超えについて演習を行う。 	ベッド 車椅子 シーツ類一式 布団類一式 杖、多点杖 スライディングボード クッション ゴミ袋
⑧食事に関連したこころとからだの仕組みと自立に向けた介護	6	6		<ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具・食器の活用方法および食事と社会参加の留意点と支援 ・食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ○食事摂取の意味、○食事のケアに対する介護者の意識、○低栄養の弊害、○脱水の弊害、○食事と姿勢、○咀嚼、嚥下のメカニズム、○空腹感、○満腹感、○好み、○食事の環境整備、○食事に関した福祉用具の活用と介助方法、○口腔ケアの定義、○誤嚥性肺炎の予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の個別性についてグループワークを行う。 ・食事時の基本姿勢について演習を行う。 ・食事及び水分摂取介助について演習を行う。 ・歯ブラシを使用した口腔ケアや義歯の扱いについて演習を行う。 	食器類・お盆 トロミ 車椅子 歯ブラシ コップ 義歯 口腔ケア ウェット ティッシュ タオル
合計	12	12				

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術					
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・生活支援技術の基本知識の学習に加え、事例に基づく総合的な演習を行うことで、体系的な知識及び技術の習得ができる。 					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等	演習	使用する機器・備品等
⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○羞恥心や遠慮への配慮、○体調の確認、○全身清拭、○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、○陰部洗浄(臥床状態での方法)、○足浴・手浴・洗髪 	<ul style="list-style-type: none"> ・手浴、足浴の介助について演習を行う。 ・清拭の介助について演習を行う。 ・浴槽への出入り及び立ち上がりについて演習を行う。 	バケツ タオル 湯温計 洗面器 クッション 車椅子 ゴミ袋 ゴム手袋
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○排泄とは、○身体面(生理面)での意味、○心理面での意味、○社会的な意味、○プライド・羞恥心、○プライバシーの確保、○おむつは最後の手段・おむつ使用の弊害、○排泄障がい日常生活に及ぼす影響、○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連性、○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、○便秘の予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・麻痺がある方への排泄の介助方法について演習を行う。 ・ポータブルトイレを使用した介助方法について演習を行う。 ・おむつ交換の介助について演習を行う。 	車椅子 排泄用品一式 ベッド シーツ類一式 布団類一式 バスタオル ポータブルタオル タオル 新聞紙
合計	12	12				

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術					
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・生活支援技術の基本知識の学習に加え、事例に基づく総合的な演習を行うことで、体系的な知識及び技術の習得ができる。 					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等	演習	使用する機器・備品等
⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ○安眠のための介護の工夫、○環境の整備、○安楽な姿勢・褥瘡予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠環境についてグループワークを行い、個別性の理解を深める。 ・介護用ベッドの基本操作とシーツの扱い方についてグループで演習を行う。 ・体位交換について演習を行う。 ・スライディングシートを用い、利用者の身体的負担及び介護者の介護負担軽減について演習を行う。 ・安楽な臥位姿勢について演習を行う。 	ベッド 布団類一式 シーツ類一式 スライディングシート
⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	6	6		<ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ 生から死への過程 ・「死」に向き合うこころの理解 苦痛の少ない死への支援 ○終末期ケアとは、○高齢者の死に至る経過、○臨終が近づいたときの兆候と介護、○介護従事者の基本的態度、○多職種間の情報共有の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期を迎えた利用者に対しどのような態度、役割を担うべきかグループで検討し、ターミナルケア時の介護者の基本的態度について理解を深める。 	模造紙 マーカー プロジェクター
合計	12	12				

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術					
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助または全介助が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・生活支援技術の基本知識の学習に加え、事例に基づく総合的な演習を行うことで、体系的な知識及び技術の習得ができる。 					
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等	演習	使用する機器・備品等
⑬介護過程の基礎的理解	3	3		○介護過程の目的・意義・展開、○介護過程とチームアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・ICFに基づくアセスメント。 ・介護計画の立案 	模造紙 マーカー
⑭総合生活支援技術演習	7	7		(事例による展開) 生活の各場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・事例の提示 1. こころとからだの力が発揮できない要因の分析 2. 適切な支援技術の検討 3. 支援技術演習 4. 支援技術の課題 ・事例は高齢分野(認知症・片麻痺)の2事例を実施。 		模造紙 マーカー
合計	10	10				

シ ラ バ ス

事業者名 くすりのマルチ初任者研修校

科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
① 振り返り	3	3		1. 振り返り ○研修を通して学んだこと、○今後継続して学ぶべきこと、○根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)
② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	1		2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 ○継続的に学ぶこと、○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例(Off-JT、OJT)を紹介
合計	4	4		